

文化財石垣保存技術協議会会報

令和2年(2020) 第25号 一令和2年度事業報告一

技能者養成研修・実技研修(真壁)

日時 令和2年11月26日(木)～29日(日)
場所 真壁高等学校稲荷原農場(茨城県桜川市)
受講生 技能会員6名、技術・研究会員2名
講師 15名、事務局1名

内容 26日 雨引観音大石垣・矢穴の調査
真壁伝承館(矢・鑿など道具の見学)
27日 石割実習、矢割実習
28日 石材加工実習、石積実習
29日 石積実習、後片付け



受講者の声

三瓶 裕司(技術・研究会員)

今回は切込み接ぎということで、野面や打込み接ぎに対して、原石から積み上がるまで実際にどのくらいの手間暇がかかるのかを目にすることができ、非常に有意義であった。

さまざまな制約の中、今回は現代の道具を多用してのものであったが、それがさらにいにしへの石工たちの功労を想像するにあまりあるものであった。

山口さんを中心に全作業を観察させてもらったが、助言や手助けをもらいながら作業を進める職人の姿に感動を覚え、無事石組みに組み込まれた時には拍手さえした。

こうした作業を是非さまざまな人に見てもらえればと思う。ダイジェストをビデオ編集して動画サイトへのアップロードでもすれば、彼ら自身の記念・記録ともなろうし、協議会の活動を周知するいい機会ではないかと感じた。

一方、小川さんの方は石材の加工に時間を要したため、研修としては開店休業となってしまったが、かえって我々技術・研究会員にとっては、時間を使って聞いてみたいこと、やってみたいことをさせて頂いた。発掘調査目線で作業を観察するのもとても貴重な体験をさせて頂いた。

鍛冶は継続して研修に組み込んで欲しい。自分で焼きを入れたノミの強度・粘りの違いを石工さんたちにも体で感じてもらいたい。

田淵 亘(技能会員)

今回初めての技能者養成研修でした。切込接ぎの石積みで、粗石から石材を割り、加工、積みの作業とともに、矢穴掘り、無垢ノミの鍛冶修理、焼入れなど、一連の作業を経験できました。

矢による石割は、穴の深さが浅く、うまく一回で割ることができなかったが、失敗を経験することで本来必要な形、深さの形状を身をもって感じることができました。

他には、研修は手加工が原則ということでしたが、時間の都合上、ルートハンマー、カッターなどを使用した加工も行うことができ、実際の現場での作業に即した施工も体験することができ、良かったと思います。ルートハンマーは普段使用することもありましたが、石積み用の石材加工の際のビットの角度など大変興味深く、初めて体験しました。

まだまだ技術の研鑽が必要と感じ、即戦力として実際の現場で活躍できるよう、日々精進してゆきたいと思います。事務局、現地世話人、講師、研修の皆さん、大変お世話になり有難うございました。

奥山 星太郎(技能会員)

今回の真壁研修では、自分の技術の現時点での力量がよくわかりました。石材のどの面を正面にするか下面にするかをよく石材を観察し決めないと、無駄に加工しなければいけなくなり、時間、体力、燃料等を浪費してしまうことになってしまいます。石の目を読み取り、正面、下面を正確に決定すれば全てがスムーズに行え、より精度の高い加工、その先の積みに手をかけることができます。手順、段取りの正確さ、石材への理解、石道具、エアツールの技術、どれも今の自分にはまるで足りていませんでした。客観的に自分の力量を見ることができたので、今後の自分の仕事、研修、日々の石垣を見る時の観点が、この研修を受講した前と後では、大きく変わっていくことと思います。

また今回の研修では、自分の置かれている立場、年齢の近い他の研修生と一緒に研修を受けたことも大きな刺激となりました。お互いを意識し合い、刺激を与えあえる存在に、うれしさと熱い気持ちを持つことができたことが一番の収穫かもしれません。真壁にもまた訪れてみたいです。

実技専門研修（大津）

日 時 令和2年10月31日（日）～11月3日（火・祝）
令和2年11月20日（金）～23日（月・祝）

場 所 ヤマハマリーナ琵琶湖（滋賀県大津市）
受講者 技能会員6名、講師11名、事務局1名



三浦 健次(技能会員)

【研修前半】

野面石での石積みの経験が少ないので、1日1日がとても勉強になる研修でした。表、裏の両面を積むということもなく、強度を出すために控えを長くしようと意識しすぎると、裏との兼ね合いが悪くなってしまったり、隣の石の天端を意識すると、だんだん布積みぽくなってしまっていたので、多くのことを意識しながら積むということがとても難しかったです。

そして見せるというところ、鏡石ぽくなる大きめの石を据えて、横、上の石で強度を出しつつ、見せるというところを意識することの大事さも勉強になりました。

野面積みだったので、石選びも自分の中では大変で、面、下端を決めつつ、サイズを合わせるということがとても難しかったです。講師の方に言われた、石を目ではめる、目で写メをとってこい、一度つったら合うところを探せ、ここに据えようと探しにきた石を他に据えるという感覚が乏しかったので、探してきた石を据えるべく加工すれば良いという自分の考えを変える野面積みの面白さを感じました。

間詰め石での四つ目解消も、自分の中では新しい発見でした。隣の石につかずとも据わりが良ければそこに据えて、空いたところは間詰めで良いというのも、もっと柔軟な考え方をしなければいけないことを学ばせてもらえました。

【研修後半】

天端石を研修生で選びに行けたのはとても良かったです。時間が限られている中で、今後、築石も選びに行けたらいいなと思いました。

糸は目安、離れて見て真っ直ぐならそれで良いというのも、加工すれば同様、考え方が変わりました。

大変貴重な講習に、実力もないのに参加させて頂けて感謝しています。とても勉強になる講習でした。ありがとうございました。

田中 秀和(技能会員)

【研修前半】

今回初めて研修に参加させてもらいました。

初日は坂本の石垣を見学して、作業場所に用意してある石で、研修生たちが積んでいく石を選んで、どのように石を積んでいくか頭で考え、想像しながら石選びをして、2日目になり選んだ石を自分の思い通りに積んでみると、なかなか想像通りにならず苦戦しながら、講師の意見やアドバイスを聞きながら、2日目、3日目と終わり、なんとか最終日には2～3段目が積み終え、改めて自分たちが積んだ石垣を見ると、坂本の石垣と雰囲気とだいぶ遠く、その理由は石1つ1つの似たサイズで積んでいて、布積みのような石垣になってしまっていて、坂本の大・中・小石がバランスよく積まれていないなと思いました。

次回は坂本の石垣のように積めるよう、もう一度石垣見学をして挑みたいです。

【研修後半】

後期の初日は採石場で石選び。前期の反省から大・小いろいろな石を選び積みにかかり、2日目ではほぼ天端まで積み終え、思った以上に早く終わると思いきや、3日目にもう一度悪いところを積み直すことに。講師の人たちに悪いところを指摘される。石がはらんで見えるところ、へこんで見えるところを解体作業、心が折れそうになりながら、糸の通りを見ながら積んでいるとまた同じ現象。そこで講師からひとこと。糸はあくまで基準、いったん離れて見ることも必要だと。そこから1石積んでは離れて、周りとのバランスを見ながら積み直していくと、解体前に比べるとだいぶ良くなって積み上がりました。とにかくいったん離れて全体を見ながら通りを見たり、石の大・小の配置バランスを見る余裕の必要も大切だと思いました。

あと、野面積みは講師のセンスもそれぞれだけど、結果崩れない積み方を指導してもらいありがとうございました。次回も参加できたら、今日よりも良いものを積めるようにしたいです。

指導者養成研修

【第6回(小豆島)】

日 時 令和2年1月10日28日 (水)

場 所 香川県小豆島町

受講生 技能会員1名

記録保存事業

「文化財化財石垣保存技術協議会 討論集」の編集・印刷

内 容 平成23年度から平成28年度にかけて技能者養成研修などにおいて実施された、伝統的な石垣技術の継承に関する討論の内容を記録した報告書を作成しました。討論内容の一部を紹介します。

- ・石材の取り換えについて
- ・石垣修理工事における調査や記録について
- ・石垣修理工事における歩掛りについて
- ・石垣修理工事の体制(発注者・設計者・請負者・工事監理者)について



討論の様子(平成26年度)

■新規加入会員紹介 (令和3年2月12日役員会決議)

会員区分	氏 名	所 属
技能会員	畔柳 智	(有)額田石材
〃	福村 貴之	福村石材工業(株)
〃	山下 公一	松本建設(株) ※一般会員からの変更
技術・研究会員	中里 聡	中里建設(株)
一般会員	荒 孝夫	
	稲本 香	
	中江 庸	(株)石文社
	中里 聖子	中里建設(株)
	見附 秀孝	清水建設(株)

■入会手続き

入会をご希望の方は、まず事務局にご連絡ください。

当協議会の入会申込書を送付いたしますので、必要事項を記入のうえ、下記の事務局へご返送ください。

役員会にて会員資格審査後、入会通知書及び会費納入の振込用紙を送付します。年会費(4月～翌3月)をお振込いただき、事務局で正式に受理した日から本協議会会員として登録します。

■事務局からのお知らせ

- ①評議会は、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止としました。
- ②第2回役員会は、新型コロナウイルス感染症拡大のため書面審議で実施しました。
(基準日 令和3年2月9日)
- ③後継者育成研修事業は、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止としました。
- ④「日本の技体験フェア～ふれてみよう！文化財を守り育ててきた匠の技」への参加は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、開催が中止となりました。
- ⑤第18回全国城跡等石垣整備調査研究会(丸亀大会)は、新型コロナウイルス感染症拡大のため延期となりました。

事務局では「会員証明」の発行を行っています。業務などで必要な方は事務局まで発行をご請求下さい。

■事務局・広報担当からのお願い

当協議会が実施する研修内容や項目について要望があれば、書面で事務局までお知らせ下さい。内容を検討の上、各種事業に反映させていただきます。

■文化財石垣保存技術協議会会員数

(令和3年1月6日現在)

技能会員	184名
技術・研究会員	122名
一般会員	40名
賛助会員	21法人
評議員	10名
合 計	377名(法人含む)

発行年月日 令和3(2021)年3月31日

編集・発行 文化財石垣保存技術協議会

事務局住所 〒670-0012 姫路市本町68-258

日本城郭研究センター内

TEL 079-289-4877 FAX 079-289-4890